



プログラムの概要

- 子どもたちにとって、川は最高の遊び場である。自主的に川での遊びを探することで、遊び場としての川を再確認し、その環境を保全することの大切さを認識する。

関連する学習	・3年生－理科「身近な自然の観察」 ・5年生－理科「流水の働き」 ・6年生－理科「生物と環境」 ・共通－図画工作「表現」 ・共通－総合的な学習の時間
所要時間	教室：45分×1、屋外活動：45分×2
活動場所	教室、流れのゆるやかな川、川の周辺（河川敷、砂州など）

Keyword

キーワード

- 安全 ●川の流れ ●感性
- チームワーク ●環境



活動のねらい

- 川でできる一般的な遊びをまず知り、自分たちでも考え、実践してみる

「川遊び」という言葉がある。子どもたちにとって川での遊びはただ楽しいだけではなく、自分たちなりにそこで安全に活動することによって、精神的に大人になっていく過程でもある。自由な発想で「遊び」をとらえ、既存の遊びを知ることに加え、独自の遊び方や楽しみ方にも結びつける。

このプログラムでは、既存の遊びとして「流木拾い」「葉っぱ（ペットボトル）流し」「水切り」「川底のぞき」「基地づくり」を紹介する。

準備するもの

○活動に必要な道具

- ・ぬれてもよい服（水着など）
- ・リバーシューズ（※ビーチサンダルのように脱げやすいはきものは不可）
- ・ライフジャケット
- ・ヘルメット
- ・ゴーグル

○安全に活動するための道具

- ・救急箱
- ・飲料水
- ・スローロープ（救助用ロープ）
- ・ホイッスル

※「流木拾い」に必要な材料

- ・軍手
- ・絵の具、ポスターカラー

※「葉っぱ（ペットボトル）流し」に必要な材料

- ・ペットボトル
- ・葉っぱ

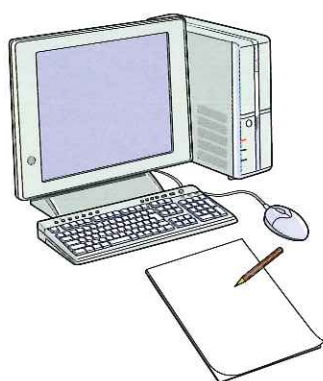
※「基地づくり」に必要な材料

- ・ダンボールや廃材

※「川底のぞき」に必要な道具

- ・箱めがね

活動準備



① 情報収集

- ・川でできる遊びに関する情報のほか、体験活動を安全に実践するための基本的な準備や注意点、川や水辺に内在するさまざまな危険について、書籍やインターネットなどを活用して学んでおく。
- ・活動を実施する川についての情報も、同様に収集する。
- ・市民団体などから植物の専門家を探し、あらかじめ「川遊び」に関するヒアリングを行ってもよい。
- ・場合によっては、その専門家に講師を依頼してもよい。

② 道具や装備の準備

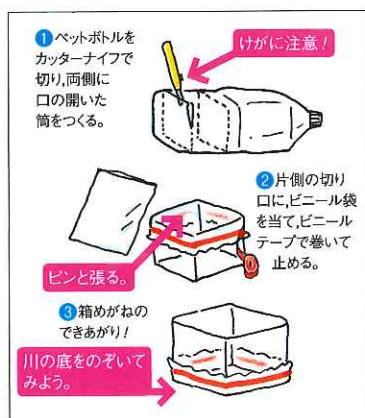
- ・活動に必要な道具（ライフジャケットやゴーグル、基地づくりのための材料など）を準備する。
- ・「川底のぞき」に使う「箱めがね」は既製品がなくても、左記の要領で手づくりすることができる。
- ・川に入る場合には、危険が少ないと感じてもできるだけライフジャケットを着用するようにする。
- ・道具のほか、炎天下の活動では熱中症や脱水症状を引き起こす可能性があるため、日陰の場所を確保するとともに、飲料水の準備もしておく。

③ 活動場所の選定

- ・目的に合わせ、事前に活動場所の候補を決める。
- ・活動場所は必ず事前に下見を行い、下見の結果に基づいて、場合によっては、安全を確保するためのスタッフ配置計画を行う。

④ その他

- ・川の流れや魚類などに影響を与えるおそれがあるときには、事前に漁業協同組合や河川管理者などの関係機関に連絡を入れ、活動計画について了承を得ておく。
- ・活動場所が遠い場合には、アクセス方法を確認するとともに移動手段を確保する。
- ・活動当日の天気や河川情報の収集を行い、天気が悪い場合には延期や中止の判断をする。活動中も天候の変化や川の水位等の情報収集を、常に心がけることが重要である。



箱めがねの作り方

※切り口にとがった部分がないかを
確認する。

（目や顔に刺さらないように注意）

導入

「川でどんな遊びをしたことがあるか」「どんな遊びがしたいか」などを問いかけ、川での遊びへの興味を引き出す。川は昔から、子どもたちのよい遊び場だったことなども説明する。教師自身の川で遊んだ体験を交えて話すのもよい。

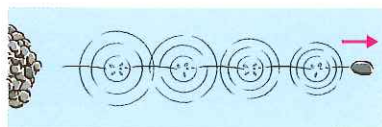
活動Ⅰ 遊びについて知る・やってみる



流木アート
【写真提供/NNP】



水切り(断面図)



水切り(俯瞰図)

- ・川での遊び(「流木拾い」「葉っぱ(ペットボトル)流し」「水切り」「川底のぞき」「基地づくり」など)について説明する。これらは、遊びやレクリエーションとして、ごく一般的なものである。
- ・「流木拾い」,「葉っぱ(ペットボトル)流し」,「水切り」は、川の中に入らない遊びで、だれでも手軽にできる。
- ・「流木拾い」では、折れた木の切り口で、手を切らないように注意する。軍手をして活動するとよい。ユニークな形状の流木を拾って、ペインティングをして楽しむ。
- ・「葉っぱ(ペットボトル)流し」では、子どもが夢中になって追いかけて、足元がおぼつかなくなってしまう、あらかじめ注意しておく。川の流れの速さの学習にもなる。子どもどうしで、葉っぱの流れる速さを競争させてもよい。
- ・「水切り」は、水面を跳ねるように石を投げる遊びで、石の選択や投げ方に少々コツが必要である。何回石が跳ねたかを、競争させるのも楽しい。川の中に人がいないことを確認して投げるように指導する。川の中で同時に別な活動をしている子どもたちがいる場合には、特に注意が必要である。
- ・「川底のぞき」では、陸から見ているだけでは決してわからない「別世界」を目にすることができる。ゴーグルでも可能だが、箱めがねがあると、より楽しめる。夢中になり過ぎて、転倒しないように注意することが必要である。
- ・「基地づくり」は、子どもたちにとっては「自立」を意識させる遊びである。できるだけ自主性を尊重し、自由な発想でつくらせたい。ただし、危険な場所を選ばないことを約束させる。

- ・実際に遊んでみて、どの遊びの、どのようなところが気に入ったかを聞いてみる。
- ・「もっとおもしろい遊びはあるか」「もっと楽しくするためには、どうしたらよいと思うか」などとさらに問いかけ、川でできる自分たちの独自の遊びを提案させる。
- ・教師は、大人の視点からその遊びのよい点を評価し、不足していることを補足する。
- ・余裕があれば、その遊びを実行してみるのもよい。

まとめ

川は楽しい遊び場でもあることに気づかせ、その環境を保全することの大切さを再認識させる。「1-3 川を流れよう」から「1-6 Dボートをつくって乗ろう」を実施している場合には、それらとの比較をさせてみる。また、それらをもっと楽しくするにはどのようにしたらよいか、アイデアを出させる。複数の遊びを組み合わせ、より楽しむ方法を考えさせてもよい。

発展

遊んでいる最中に気になった川の環境について話し合い、楽しい遊び場である川の環境を保全するためには、何が必要で、何ができるかを考えさせる。可能であれば、それを実行に移すのもよい。

自分たちの身近な川やその周辺で行われている、独自の遊びはないか探してみる。また、お祭りなど、川にまつわる行事もその延長にあることを説明する。

参考情報

○川に生息する生物の情報

- ・河川水辺の国勢調査結果（国土交通省）(<http://www3.river.go.jp/>)

○川の水位や天気に関する情報

- ・川の防災情報（国土交通省）(<http://www.river.go.jp/>)

○川の指導者に関する相談先

- ・NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会（RAC）(<http://www.rac.gr.jp/>)

